

広報



かわにし

平成4年 12/10 No.412

〒948-01 新潟県中魚沼郡川西町大字水口沢12番地 (TEL 0257-68-3111)

(FAX 0257-68-3828)

発行 町長 南雲春雄 編集 総務課文書広報係 印刷 白南風社

(毎月10日発行)

人口の動き
— 12月1日現在 —
男 4,374 (-7)
女 4,456 (0)
計 8,830 (-7)
世帯数 2,213 (0)
()は前月比較



みんな仲良く楽しもう 児童と入所者がふれあい祭り

— 11月7日 —

上野小学校(山後憲雄校長・児童数104人)では、精神薄弱者更正施設「なかまの家」の入所者を招いて「ふれあい祭り」を開きました。

この企画は、入所者が不自由な体にもかかわらず一生懸命頑張っている姿を学び、それを通じて児童に広い心・豊かな心を養ってもらいたいと、6年前から実施されているものです。今回は、およそ60人ほどの入所者が、児童と一緒に歌やゲームなどをして楽しみました。



休日救急医

12月13日	国保診療所(中央町)	☎ 68-2034
20日	中条病院(中条)	☎ 57-3018
23日	池田医院(本町西)	☎ 52-2581
27日	山口医院(袋町)	☎ 52-2174
29日	大熊内科医院(山本町)	☎ 52-7066
30日	大坪医院(四日町)	☎ 57-6100
31日	至誠堂医院(西浦町)	☎ 52-3276
1月1日	庭野医院(寿町)	☎ 52-2711
2日	大島医院(川原町)	☎ 52-2957
3日	山口医院(下条)	☎ 55-2003
10日	国保診療所(中央町)	☎ 68-2034

議会報告

十一月二十四日、第七回町議会臨時会が開かれました。会期は一日間です。

始めに、専決処分した事件（一般会計補正予算）を承認、次に、町営住宅条例の一部を改正する条例、一般会計補正予算ほか一件の補正予算を原案とおり可決。続いて、診療所建設工事請負契約の変更契約を承認しました。



12月末の完工を目指して急ピッチで工事が進む新診療所

社会合え支え 心ある理解



車いすでもスイッチが押しやすいような配慮がされています。(活性化センター・保健センター)

私たちの社会は、すべての人にとって、いろいろの面で平等で、お年寄りも子供も、男性も女性も、障害を持つ人も持たない人も、一人ひとりが等しく尊重されなければなりません。これまで、国や県、町でも福祉、雇用、教育、生活環境など幅広い分野から障害を持つ人に對して、さまざまな施策を展開してきました。しかし、障害を持つ人に対する誤解や偏見など、心の問題は、私たち一人ひとりが解決していかなければ

すべての人が平等で 尊重されることが大切

ならないものです。そのためにも、障害を持つ人と持たない人とのふだんの交流、ふれ合いが大切です。

障害を持つ人が積極的に社会に参加し、生きがいのある活動ができるように、私たちみんなで協力し合うことが大切です。

社会環境が 障害を持つ人の壁になる

障害を持つ人は、目が不自由であったり、手足が不自由であったりして、その障害の内容はさまざまです。しかし、共通していることは、なんらかのハンディ（不利）を持って生活を

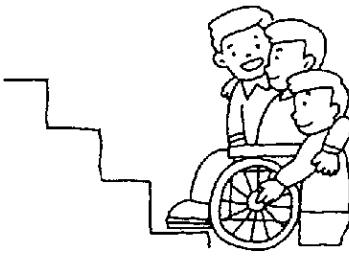
私たちは、障害を持つ人たちのことを「自分にはあまり関係がない」と、他人事のように考へてはいないでしょうか。傷害者という、生まれたときからすでに障害を持っていた人が多い……などと思いがちです。しかし、視覚や聴覚、手足に障害を持つ人のうち、九割以上は生まれたときから障害を持つてゐるわけではなく、病気や交通事故などが原因で、人生の途中から障害を持つようになったのです。

病気や事故は、だれにでも起こりうることです。いま障害を持つていなくても、いつ、どこで、障害を持たないとも限りません。また、高齢化時代を迎えようとしているいま、年を重ねて体に障害が出ていくという人も年々増えている傾向をみせています。

障害がいつわが身の問題になつてもおかしくない時代に私たちは生きています。では、障害を持つ人の問題を、どのように考へていけばよいのでしょうか。

エチケット・メモ

●手足の不自由な人には



「どうやってお手伝いしたらいいですか」とまず声をかけましょう。例えば階段では、二、三人がかりで、上がる時は車いすを前向きに、下がる時には後向きにして、車いすの人が落ちないように静かに運びます。



例えば、雨の日は「どうぞ」と一声かけて傘をさしかけてあげたり、荷物を持ったりしてあげましょう。並んで歩く時には、松葉杖にぶつからないように注意してください。

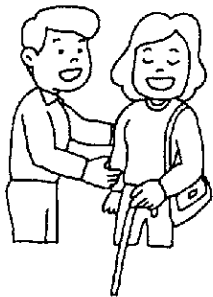
していることです。例えば、車いすの人たちにとっては、駅などの階段は大きな問題です。でも、周囲の人が車いすを気軽に運んで階段の昇り降りをしてくれれば、少なくとも階段という問題は気にならなくなります。

自分自身の問題として障害を考える

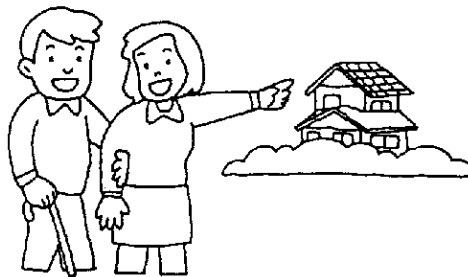
この社会的な障害をなくすために、私たちは次の二つのことに目を向けなければなりません。一つは、道路や建築物、交通

を持たなくなります。言い換えれば、社会環境が障害を持つ人の「壁」となったときにハンディが生まれてくるのです。

●目の不自由な人には



あいさつする時は、見える人の方から先に声をかけてください。そして握手をしてください。



機関などの「物理的な壁」です。点字ブロックや段差をなくしたスロープ、車いすの人でも使える公衆電話やトイレの設置など、障害を持つ人が、持たない人と同じような生活を送り、活動できるような生活条件を提供して

●耳の不自由な人には



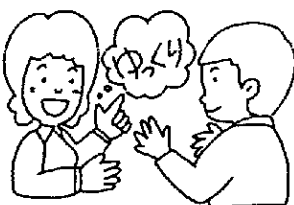
意外と知られていないことですけれども、聞こえない人には話好きな人が多いのです。心を開いて話しかけてください。



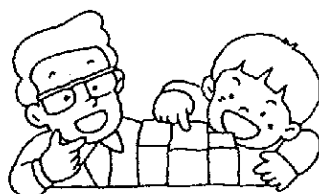
大きく口をあけて、はっきりジエスチャーを交えながら、ゆっくりと話してください。それでもわかってもらえない時には、手のひらや上に文字を書きます。

やることです。もう一つは、「心の壁」です。人の心は、一人ひとりが障害を自分自身のこととして考え、受け止めなければ変えることはできません。そのためには、障害をもった人を特別な人と考えた

●ちえおくれの人には



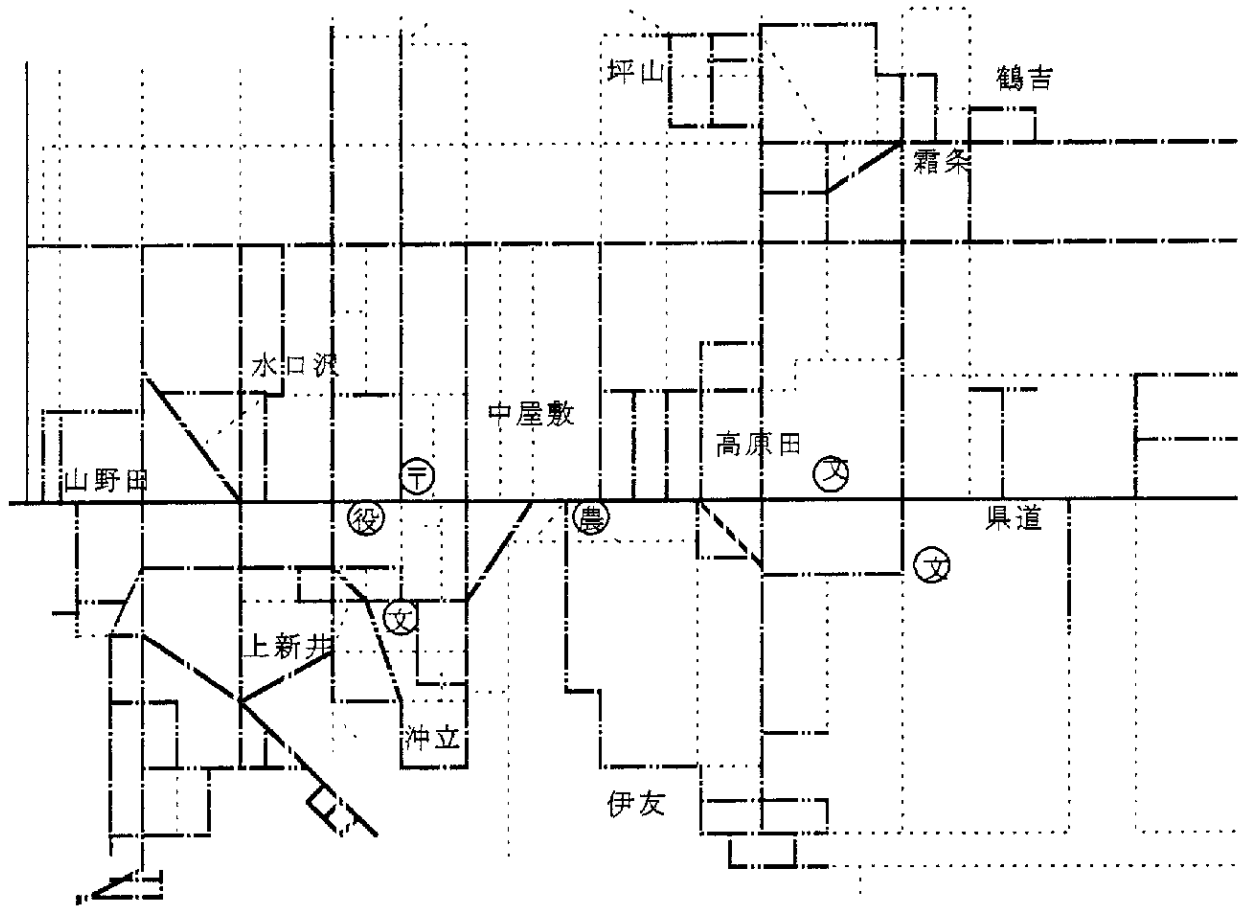
話しかける時は、わかりやすいことばでゆっくりと、ていねいに話しかけてください。



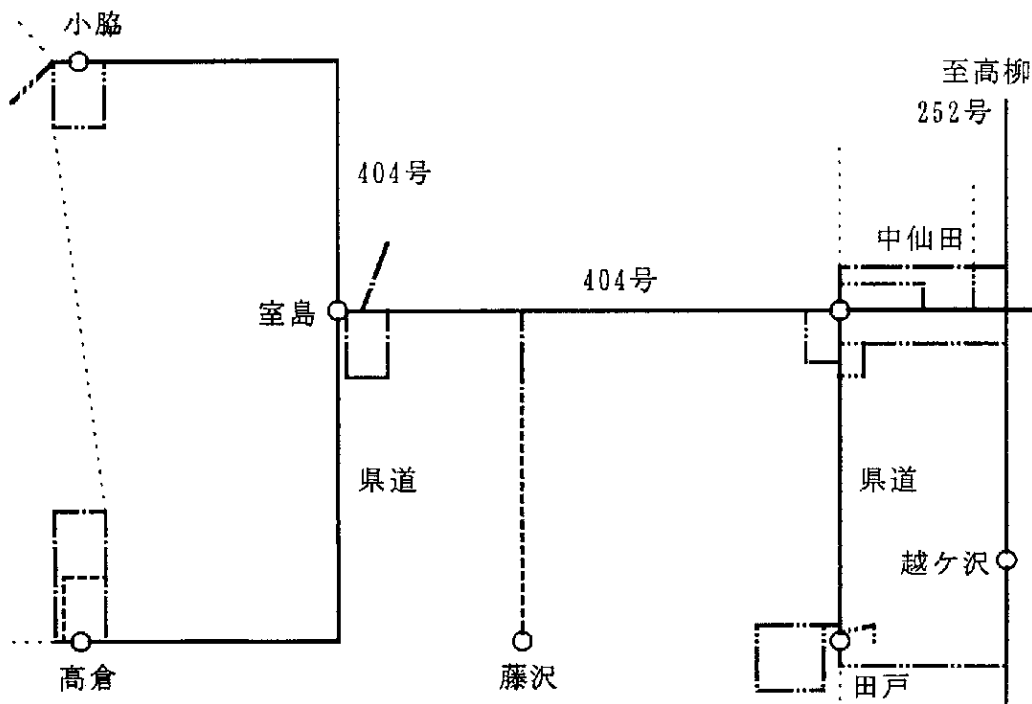
コツコツとまじめにものごとを進めていく能力では劣ることはありません。いい面を最大限に生かしてあげるようにしてください。

り、障害だけに目を奪われたりするのではなく、「障害」を一つの個性として受け止めるように、自分の心を変えていく努力が必要で、ともに交流をし、お互いの理解を深めることから始めていきたいと思います。

今冬の除雪計画



除雪路線 (仙田南)

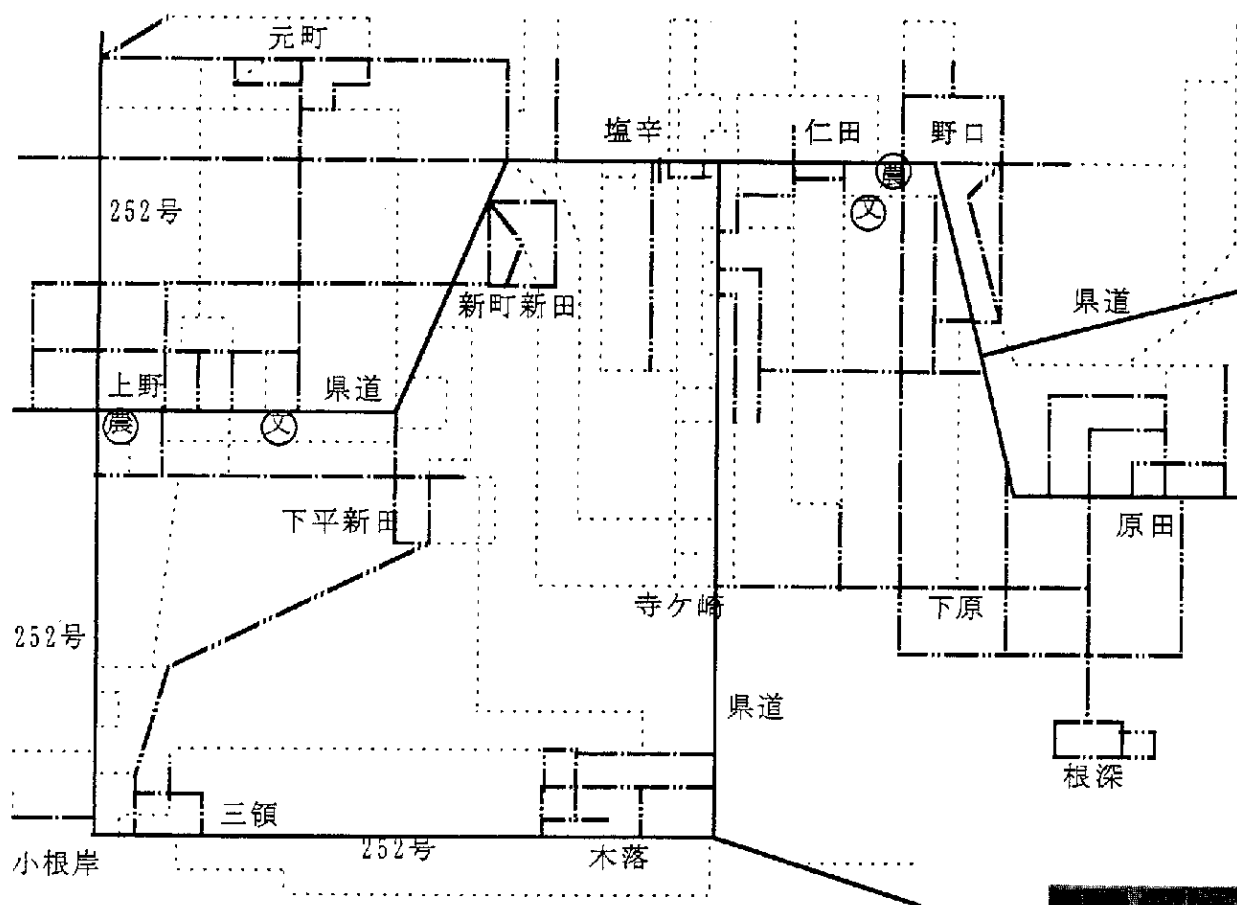


平成四年度の除雪事業は、前年度に引き続き除雪が可能となった路線を新規に組み入れ、消雪ハイブ、消融雪施設を有効利用し、機械除雪を主体に実施します。

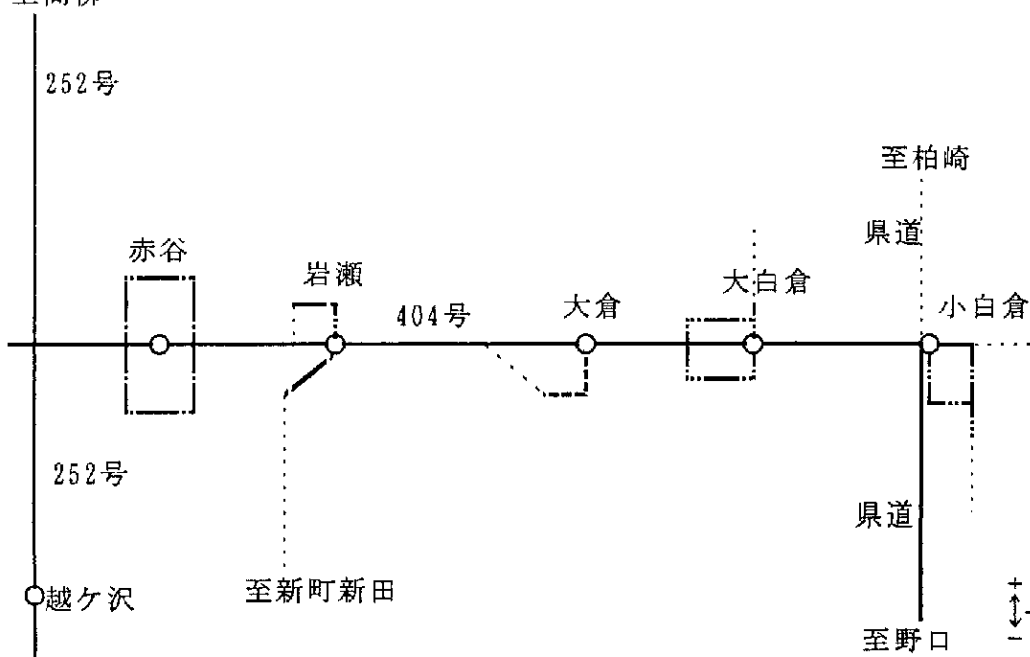
今年度、町道は二・二キロ除雪延長が延びました。また、歩道除雪は、国・県・町道合わせて六路線、七・六キロが実施されます。

—— 国県 ——— 第一種 ——— 第二種 - - - - 圧雪 非除雪

除雪路線（上野・橘）



至高柳 除雪路線（仙田北）

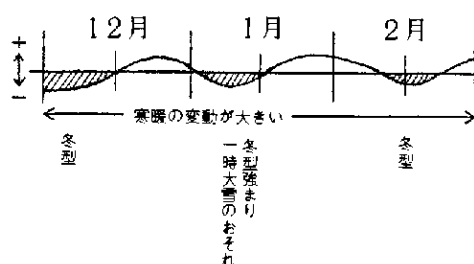


- 〔注〕 第一種路線 — 2車線または1車線の幅員確保を目標
 第二種路線 — 1車線確保を原則とし、場合によっては
 一時交通不能になる。



小型除雪機での歩道除雪のようす（3.12.30 東善寺地内）

おおよそのイメージ



多彩な催し 秋を楽しむ

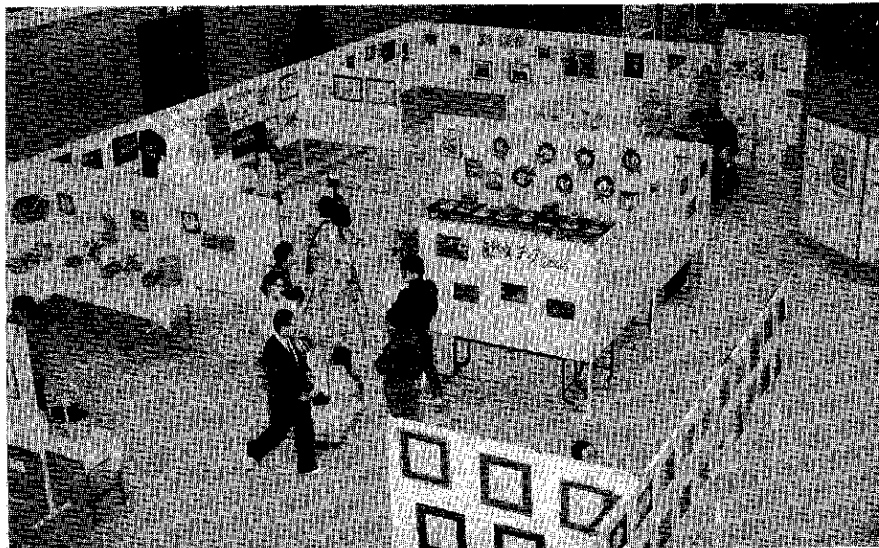
十一月七日、八日の二日間、総合体育館と千手小学校体育館を会場に、「第三回 町民文化祭」かわにし'92」が開かれました。第十八回目を迎えた美術展では、絵画・書道・写真の部門に町の芸術家たちの作品一一七点が展示され、第四回目となる公民館作品展には、八教室からほのぼ

のとした心温まる作品一二四点が集まりました。

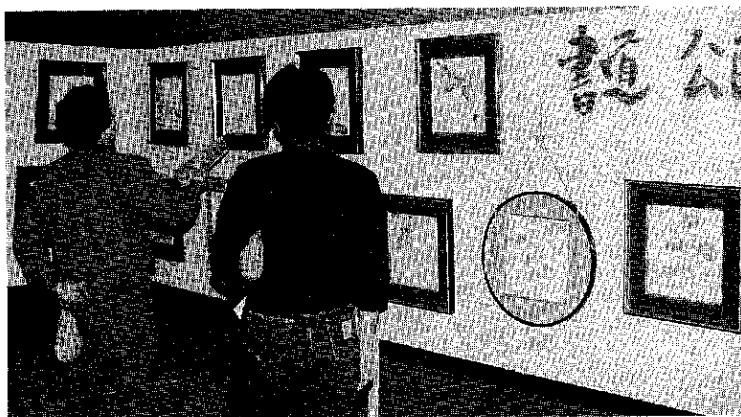
また、「ビデオクラブかわにし」による自作ビデオの上映、読み聞かせの会「ふきのとう」による絵巻物の上演と「こどもにもっとおはなしを」と題した(財)松戸市おはなしキャラバン事業部長の浜島代志子さんによる記念講演も実施されました。ふ

きのとう一は、今までの活動が認められ、さる十一月五日、新潟県読書推進協議会から表彰を受賞しました。

さらに、川西コンサート協会のピアノやフルート演奏、美しい歌声は、集まった人たちを魅了した。この多彩な催しに、およそ一千人が芸術の秋・文化の秋を楽しみました。



多くの作品が展示された会場のようす



◀ 自作でしょうか、他作でしょうか。熱心に見入っていました



手づくり工芸教室のコーナー



大絵巻物語の上演は、子供にとっても喜ばれました

▶ 今回は、琴の音も聞けました



町道山野田下平線の壁面画 ほくりく建設 コンテストで優秀賞



壁面画は手形を押す記念事業もありました

十一月十九日、新潟市の新潟東映ホテルで、第二回ほくりく建設コンテスト（北陸地方建設事業推進協議会主催）の表彰式がありました。席上、このコンテストのPR部門で、町がことし三月実施した町道山野田下平線の壁面画「夢ロードお絵かきごっこ」が、優秀賞を受賞しました。

このコンテストは、魅力ある建設事業を推進するため、景観・デザインなどに配慮された社会資本整備や建設現場の環境改善、建設事業に関する各種広報活動などについて創意工夫あふれた取り組みを顕彰しようと、昨年三部門に八十件（PR部門三十件）の応募がありました。事業は、ことし三月十日～三十一日に実施したもの。町道山野田下平線の道路改良に際し、法面に「ふれ愛の里川西」の造形文字と、落石防止柵コンクリート壁面に一般募集した「太陽の子ら」と銘打った壁面画を作製したもので、一般町民百人、保育・幼稚園児百五十人が参加しました。

講師の話熱心に聞く参加者



会場にはいろいろの融雪装置などが展示されました



やさしさと

快適な雪国を求めて

克雪タウンフェア

今回は、「やさしさと快適な雪国を求めて」をテーマとして、先ほど、国の地域づくりアイデアコンペで雪の厳しさを、楽しさを体験しながら雪を知る「雪の建物」などを提案し、国土庁長官賞を受賞した星奈緒子さん（山野田・千手小6年）の作文発表や、新町新田と下平新田集落における克雪まちづくり活動地区の実践発表。また、(株)北越銀行常勤監査役の小柳喜實さんから「岡目八目わたしの地域おこし」と題した記念講演をいただきました。

十一月七日～八日、総合体育館で「克雪タウンフェア」がありました。これは、町が平成二年度から取り組んでいる「克雪タウン計画促進事業」の一環として開かれたものです。

雪国ならではの、より活動的で快適な生活を目指して、いろいろの分野の人たちが工夫とチャレンジを積み重ねながら、活動を進めています。フェアでは、こうした活動を直接見ていただき、これからのまちづくりに役立てたいとするもので、ことしで三回目となります。

仙田村の学校問題⑤

岩瀬 金子 幸 作

田戸校へ通った

昭和四十九年三月に発行した
閉校記念誌「中仙田校のあゆみ」
に、当時の古老たちが中仙田校
の創設期を語った貴重な特集が
ある。この「歴史を語る座談会」
に出席したのは、記憶力が抜群
な樋口孝治・小林佐平・小林与
作・小林猪作・南雲操のみなき
んで、往事の学校問題がおおよ
次のように記されている。

室島の学校へ行くには新道（四
尺巾）上の島のカケ道が危険で、
中仙田に学校ができるまでは田
戸校に通学していた。越ヶ沢か
ら中仙田へ出るには危ない一本
橋をいくつも渡らなければなら
ず、越ヶ沢の子どもたちも田戸
の本校へ通った。

中仙田校の草創期

赤岩校の分場として明治二十
三年に置かれた学校は、新屋敷
の、伴左工門の近くの藤左工門
という家だった。まもなく上の
山に新校舎を建てることになり、
山師であった四郎の藤太郎が請
負い、地固めの相撲が行われて

室島の徳大工が建築した。

三年生までは旧校舎で、四・
五・六年は一段高い上の山の校
舎で一日に五時間勉強したが、
紙や鉛筆がなくて石板と石筆を
使った。小学生の服装はワラ緒
のベツチャラ下駄で、雨の時は
山笠をかむり、冬は棒を持って
下駄の齒にはさまる雪をたたき
落としながら通学した。冬の着
物は綿入れの山ヌノコか長ヌノ
コ、ももひきがなくて下は何も
はかず、寒くてもブラブラ出し



半鐘合図に兵隊を送る
(明治期の中仙田南雲助役提供)

ていた。女の子もそうだった。
学校に半鐘を下げておき、毎
朝たいて集まった。兵隊送り
や寄り合いの合図も半鐘だった。
学校を競争で建築

上の山の学校を中の島に移す
ことにしたのは、手ぜまになっ
たというよりは室島の高等科を
中仙田に持ってきたかったか
らである。赤岩校区は、中仙田
校に統合されるのがおっかなく
て当初は室島側に味方し、中仙
田を室島に統合させて赤岩校か
ら遠ざけようとはかった。室島
は増田家が村予算の大部分を背
負っていたこともあり、赤岩の協
力を辛いに、頭を下げて室島へ
通うべきだと言いつ張った。

一足先に仙田校

高倉と白倉校区を中心に、田

戸と赤岩校区の一部も中仙田校
と仙田校を作るのに反対で、渦
中の中仙田でいくども村民大会
を開いたりして大変だった。

役場の二階で村会が開かれる
と各校區から傍聴人が押しかけ、
中に入れてもらえない者が屋外
でヤジをとばして、「ヤローこの
野郎、たたくぞ」などとワアワ
アやった。十日町署から刑事が
来て監視したりしたが、屋外の
ことで取り締まりもできず、た
だ見ていただけであった。

室島は、中仙田に学校を造ら
れると不利になるからと、仙田
村が認めようが認めまいが、増
田さんの力で学校を造ってしま
った。当時の増田家は村税の四
分の一を上納しており、中仙田
としても頭が上がらなくて強い
ことが言えなかった。

血と汗にじむ校舎

三万円もかけて学校を造るの
に、村財政が貧弱で地元負担が
六割だった。金融機関がなかつ
たので、信用組合を作って工事
にかかった。中の島という中仙
田の一等地の畑をつぶし、用地
を強制的に出し合い、グラウンド
も二百メートルのコースがほし
くなって一町歩が必要になり、
みんなが兵隊に取られたような
つもりで畑を提供した。

労力が大変だった。車も無い

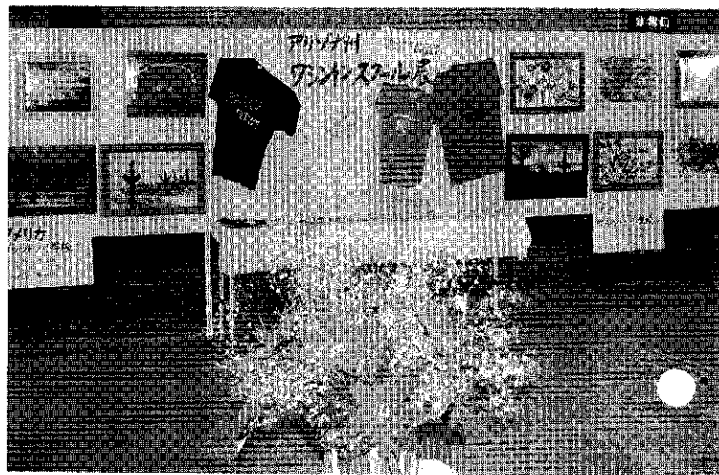
し機械も無く、すべてが人力で小
さいヤロッコまで使役に借り出
されて鉄を振い、モッコをかつ
いだ。松の山から筏を組んで素
材を流してきたが、大水が出る
と流されて、小国や米迎寺のほ
うまでテクテク歩いて探がしに
行き、頭を下げてもらってきた。
柏崎から来る外材は、ムラ中の
若い衆が使役に出て縄で背中へ
横負いにし、カニのように横歩
きしたり、ムカデのような運び
方をしたりで苦労した。ムラ中
が力をふりしほり、汗と油で完
成した中仙田校舎だった。

通う気のない室島

学校はできたが、室島の子も
赤岩の子も通学してくれなかつ
た。中仙田の構想とすれば、自
分の所だけならムラの中央に小
さな校舎を建てれば間に合った
のに、広い中の島へ移して、村
中の学校が統合しても収容でき
る大きな校舎にしたのだった。

悪かった道路もしだいに良
くなり、中仙田地内は難所が改良
されて車も通る広い道になった
が、室島の衆は中仙田に通学す
るのが嫌で、自分のムラの道を
数年も改良しなかった。中仙田
地内はりっぱな九尺道になって
いたが、それから先の室島まで
は馬がやっと通れるほどのデコ
ボコで細い道だった。

児童画などを交換 国際的な 文化交流にひと役



町民文化祭で展示されたワシントンスクール展

十一月七日・八日に開催した「第三回町民文化祭」の会場で、『米国アリゾナ州フィニックス・ワシントン小学校展』が開かれ、児童画や学校、州の紹介図書など、およそ四十点が展示されました。

これは、高倉国際村の松本三季さん、フォート・ジャーナリストとして国際的に活躍の白木川富子（東京在住）のご発案・仲介で実現したもの。学校紹介のビデオや千手小学校の児童画（二十点）の交換という、国際交流の姿を町民のみなさんからご覧いただくことができました。

また、会場では、ワシントン小学校へ送った交換ビデオの放映なども実施され、足を止めて

見入っている姿も多く見かけられました。

今回、町民の方々からご覧いただいた交換作品などは、今春、先方から届いたもので、これまでに町内の小学校五校で巡回して展示されてきました。

このワシントン小学校展の様子は、ビデオに収めて先方に送るため、ビデオクラブの会員の手で、目下、編集中です。

交換した児童の作品は、今後もお互いに永久保存し、国際的な交流に役立てたいと考えています。

*フィニックス市・アリゾナ州の州都で、アメリカ第二のハイテク産業の都市

昔の遊びや ワラ細工をして楽しむ



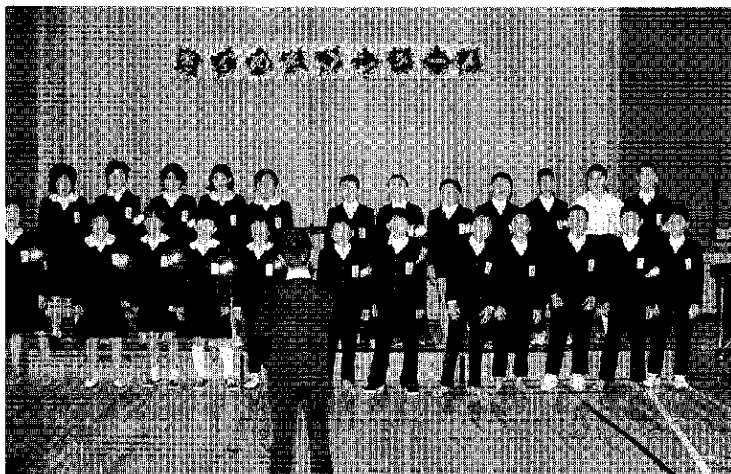
一生懸命に縄のない方を習いました

千手小学校では、各学年の学級を主体に、特別活動を実施しています。十一月七日、五年二組（26人）では、体育館で歌や器楽を披露する「きらめきコンサート」と銘打った催しをしました。

この催しでは、企画からステージの看板づくり、父兄・来賓への案内、会場整備など、すべて児童たちが中心で進められました。また、当日は、児童が「よくいらっしやいました。会場はこちらです。」などと、校門から父兄らを出迎えていました。

コンサートでは、歌や器楽を全体と三つのグループに分けて発表。他組の友情出演なども盛り込まれ、集まった父兄らは、およそ二時間にわたって二十ほどの出しものを楽しみました。

手づくり ♪♪♪ コンサートを実施



2組全員による歌の発表

十一月二十七日、仙田小学校しづみ児童会（高橋新会長・児童数57人）では、おじいちゃん・おばあちゃんを招いて、「お楽しみ会」を開きました。

この会は、児童がお手玉、おはじき、あやとりなど、昔の遊びを教えてもらったり、縄のない方やぞうりの作り方など教えてもらったりして、おじいちゃん・おばあちゃんと一緒に楽しむというものです。

まず、児童全員で、おじいちゃん・おばあちゃんたちを拍手で迎え、代表が「全校児童が今日の日の楽しみに待っていました。いろいろ教えてください。」とあいさつ。そのあと、一年生六人が歓迎のあいさつをして、早速、グループ分かれて昔の遊びを一緒にしたり、ワラ細工を習ったりしていました。

図書室 だより

読み聞かせの会
「ふきのとう」 県表彰受賞

読み聞かせの会「ふきのとう」



表彰を受けた「ふきのとう」役員のみなさん

(北村フミ子会長)「の、多年にわたる読書運動推進活動が認められ、さる十一月五日、新潟県読書推進運動協議会から表彰を受け、角張県図書館長から伝達されました。この表彰を受賞したのは、当町と白根市の二グループです。

「ふきのとう」は、昭和六十二年に発足した子供の本を学習する若いお母さん方の読書グループです。毎月上野コミニューティセンターと総合センターで子供たちに本の読み聞かせをして親しまれています。また、人形劇の公演や有線を通しての昔話の放送でもみなさんに親しまれています。

本年は発足五周年記念事業として、町民文化祭に絵巻物語りと浜島代志子さんの講演会を主催してくれました。「ふきのとう」のみなさんの、ますますのご健闘を期待しています。

年末の

交通事故防止運動

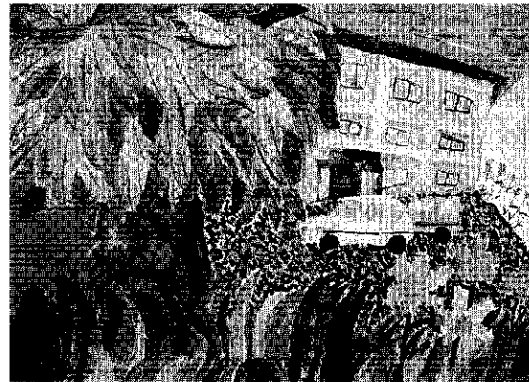
12月11日～12月31日

飲酒運転しない させない みのがさない

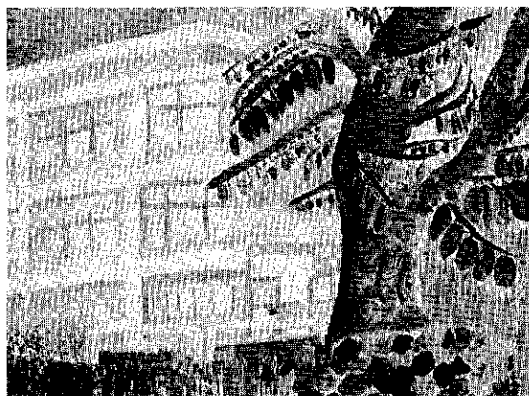
ちいさな展覧会

白倉小学校

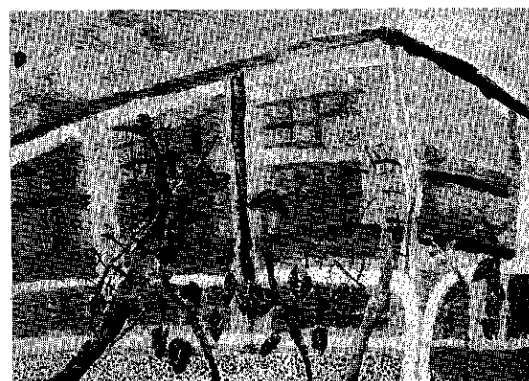
53



5年 片桐八千代さん



5年 田中恵梨香さん



5年 中村蔵幸君



5年 桐生和久君



2年 片桐美穂さん

(1月号は川西中学校です)

善 意

(敬称略)

老人福祉に

清 水 キ イ (上町) 10万円

広報発行に

西 野 美 枝 (練馬区) 1万円

ヤマザクラ

1本

十日町地区造園組合

カーブミラー

10基

新潟県共済農業協同組合連合会

ふるさとの風を届けます

ふれあい広場

十一月二十二日、東京高山寺で、町商工青年部が「ふれあい広場」を開きました。

この催しは、商工会青年部が毎年実施しているもので、今回で七回目。町の特産品(漬け物、ソバ、モチなど)の販売や、地酒の試飲、山菜おこわ、きのこ汁、アンブなどのコーナーを設け、季節感のない東京で出舎の寡居感を味わってもらい、イベントを通じて川西町を知ってもらおうというものです。

ことしは、天候にも恵まれ、山菜おこわやアンブはあっというまに売り切れ。モチツキには、ちょっとした人ばかりができるほどでした。

「当日は、ミス川西や仲間の家、農協のみなさんからも協力してもらい、また、会場では、多くの町出身者からお取り持ち、お手伝いをしていただいた。おかげで大盛況となり、とても感謝しています」と、青年部では関係者にお礼を述べていました。



野菜の販売なども行われました

★★戸籍手数料の

一部が改正されます★★

国の政令により戸籍手数料令の一部が改正され、平成5年1月1日から実施されます。

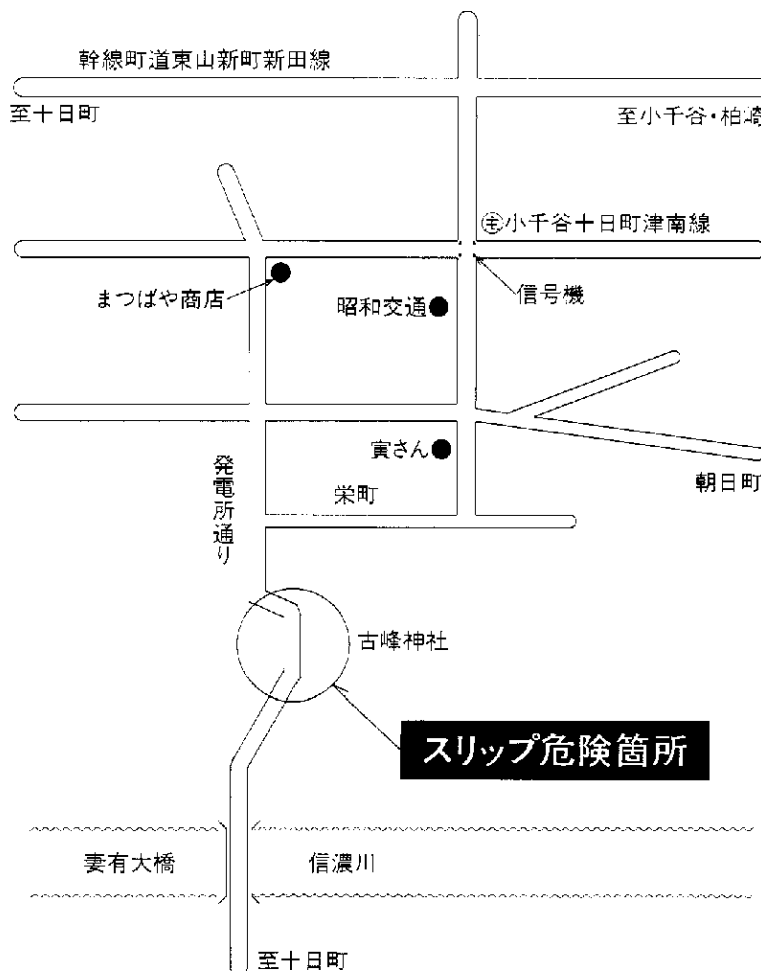
このことにより、手数料が次のように改定されます。

種 類	部 数	現 手 行 料	改 訂 後 料
戸籍の謄本又は抄本	1 通	300円	400円
除籍の謄本又は抄本	1 通	500円	700円
戸籍の記載事項証明	証明事項件	200円	300円
除籍の記載事項証明	証明事項件	300円	400円
届書の受理などの証明書	1 通	200円	300円
令5号ただし書の証明書	1 通	1,000円	1,300円

危険ですスリップ事故に注意を!

ことし5月「妻有大橋」が開通したことにより、町道山野田下平線(発電所通り)の交通量が急増しました。また、この路線は暫定供用のため、発電所通りから十日町市へ通じる古峰神社付近が急坂・急カーブで、冬期間はスリップ事故の多発が予想されます。

町でもカーブ改修工事により安全対策を図ります。しかし、気象条件などにより危険と思われるときは、十日町橋を通行するようにしてください。



戸籍の窓から

昇天—ごめい福を祈る

南雲 好信 69 (本人) 寺尾
水落 キヌ 71 (伊作) 仁田
増田 庚吉 72 (本人) 室島
金崎 熊次 82 (本人) 野口

うぶ声—おすこやかに

佐藤 理奈 正利 二女 高原田

白井 咲貴 裕子 長女 寺尾

田中 佑希穂 亮一 二女 中島町

中村 亜希子 亨 長女 坪山

星名 陽太 和幸 長男 伊勢平治

たかき—ご円満に

押木 幸宏 元町

近藤 さと子 十日町市から

星名 悟 沖立から

小山 ゆかり 木落

大声に縁起売りこむ西の市

足立区 駒形 頼太

晩秋の畑残り菜のみどり濃し

岩瀬 登坂伊智子

晩秋の入陽を背に菜を洗う

仁田 戸田 貞子

柚子入れし香りのたのしみ風呂の中

綾瀬市 野沢ますえ

紺碧の空に浮かびて柿赤し

上野 星名 春子

溪谷の流れに映る楓かな

木落 丸山 詩朗

冬の蠅障子の棧に動かざり

中仙田 高野仙蒼子

冬晴や声高くして竿屋行く

練馬区 須藤 遊人

小春日を背一ぱいのくわい掘り

上野 渡辺 朝

木洩日の道に野菊の咲きにけり

八王子市 松浦 サク

遠寺の鐘の音遙か秋深む

小白倉 江口みゆき

山茶花の花芽日毎に紅増しぬ

仁田 小幡しん女

冠雪の見える色増す山紅葉

新町 若山 向山

大崎の春菜の畑の時雨いし

野口 野沢 寅生

声かけて行き交う人も煩かむり

八王子市 田中 ひさ

南天に朝の日差しの斜めかな

浦和市 登坂 博史

小豆干す筵の端の二人かな

元町 金子 鉄平

節黒の神体いづく秋の風

上町 高橋 頼似

枯れ菊にすがりかまきり死んでおり

野口 野沢 静江

屋根屋根の真白にありし今朝の霜

野口 五十嵐トラ

吊柿かわきそめたる色にあり

寺尾 白井すみい

たそがれて墨絵に似たる山の宿

原田 根津とき子

しも月の畑に青々檜苗

厚木市 川崎 保一

銀杏の葉散り敷く土のやわらかに

野口 村越 春野

柿の実のひとときわ赤く夕日中

上野 入沢 はや

北風に木の葉舞いつつ落ちゆける

新町 井川 亘

◎はがき一枚に五句以内

◎町内名、氏名を明記(雅号の人は本名も)

◎役場内・文書広報係か

中央町・太田白南風あて

◎人賞者には、記念品贈呈

◎題・初明り

・買初

・新年雑詠

新年俳句募集

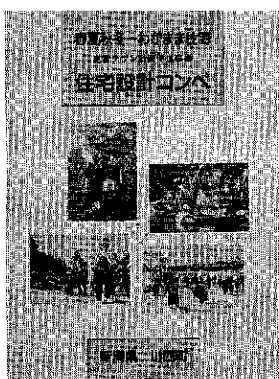
12月25日必着



お分けします

町が平成三年度に実施した、「住宅設計コンペ」の応募作品の中から、入選した六名の作品をまとめた作品集ができました。ご希望の方には、送料実費(一〇〇円)、無料でお分けします。お申し込みください。

申込先 役場建設課都市計画係
☎〇二五七―六八一三二二



上野の星名さんら

十七人に俳壇奨励賞

第五回本紙俳壇奨励賞受賞者は、次の方がたに決まりました。一年間一回も休まずご投稿(入選)されたみなさんです。

(順不同・敬称略)

星名 春子(上野)

駒形 頼太(足立区)

江口みゆき(小白倉)

斎木 和人(高倉)

中条 石平(大倉)

内山 寛平(上野)

小川 益栄(岩瀬)

野沢 寅生(野口)

金子 鉄平(元町)

村越 幸(野口)

松浦 サク(八王子市)

登坂伊智子(岩瀬)

渡辺 朝(上野)

野沢ますえ(綾瀬市)

村越 由喜(野口)

丸山 詩朗(木落)

田中 ひさ(八王子市)



かわい 俳壇

太田白南風選

葉牡丹の芯紫の渦巻きて

高倉 斎木 和人

冬仕度少き日和大切に

小白倉 田中 優美

縛られし枝の一輪の返り花

山野田 藤田ひろ志

枯菊を焚き残りたる匂いかな

野口 村越 由喜

山間の村寄合ひて秋日かな

東善寺 長野 キミ

鉄塔の脚から昏る日短か

霜条 星名 星光

あめ色に渋の抜けたるつるし柿

大倉 中条 石平

信濃路や車窓に移る山紅葉

野口 村越 幸

枝柿を積み日曜の無人店

伊勢原市 金子 桂吉

歯のうずき覚え初雪来る兆し

岩瀬 小川 益栄

菊壇ありて手酌の酔ひまし

霜条 大海 白濁